

<近畿地区>

～新品種のイチゴ「古都華」で地域の活性化に取り組む～

1 農業経営の概要

就農地	奈良県
氏名(年齢)	清家 佑介(32)
営農類型(規模)	野菜(20a)
農業経営開始時期	平成27年3月
労働力	5名(本人、本人の両親、妻の両親)



2 就農までの経歴・就農のきっかけ

- ① 奈良県出身(実家は非農家)。調理師や趣味が高じて始めた潜水士の仕事で県外で働くも、30歳を機に地元へのUターンを検討。地元のことを調べるうちに、新品種のイチゴ「古都華」のことを知り、その味に感動。「古都華」を自分自身でもつくってみたいという思いから就農を決意。
- ② 奈良県の研修制度を通して、「古都華」の生みの親といわれる地元農家と出会い、この農家で1年間研修を受ける。
- ③ 研修を受ける傍ら、農地探しに奔走。農地確保の後、育苗ハウスや高設栽培の施設取得のために青年等就農資金を借入れ、就農。

3 営農において工夫している点・資金を利用した効果など

- ① 農地の確保に苦労したが、根気強く探した結果、運よく規模縮小を検討していた農家から農地と温室を借りることができ、初期投資の費用も抑えられた。
- ② 先輩農家のいる研究会に参加し、積極的にアドバイスを受けるようにしている。
- ③ 育苗ハウス、高設栽培の施設取得に青年等就農資金を利用し、農業経営のスタートをきることができた。

4 今後の経営展開(抱負)

- ① 調理師として奈良県内の洋菓子店で修業した経験があり、この人脈を生かし販路の拡大を図りたい。
- ② 「古都華」は光沢があり、味のバランスも良い等の特徴がある期待の新品種。高齢化が進む地元で「古都華」の生産を通して地域活性化に取り組みたい。
- ③ イチゴの生産が軌道にのったら、ジャム等のイチゴの加工品づくりにも取り組んでみたいと考えている。